

はじめに

平成 27 年 3 月 24 日公表された情報活用能力調査結果のポイントとして、次のような点が課題として上げられています。

○ 小学生について、整理された情報を読み取ることはできるが、複数の Web ページから目的に応じて、特定の情報を見つけ出し、関連付けることに課題がある。

また、情報を整理し、解釈することや受け手の状況に応じて情報発信することに課題がある。

○ 中学生について、整理された情報を読み取ることはできるが、複数の Web ページから目的に応じて、特定の情報を見つけ出し、関連付けることに課題がある。

また、一覧表示された情報を整理・解釈することはできるが、複数 Web ページの情報を整理・解釈することや、受け手の状況に応じて情報発信することに課題がある。

このような、できる部分を伸ばし、課題として考えられる部分を改善するためには、次のような教師の意識が必要であると考えられています。

- ・ 児童生徒に自分の考えを表現させること
- ・ 児童生徒に情報を整理させること
- ・ 児童生徒に情報手段の特性に応じた伝達及び円滑なコミュニケーションを行わせること

そのためには、学校での ICT 活用において、情報を収集すること、表やグラフを作成すること、発表するためのスライドや資料を作成することなどを、個人、ペア、グループで実践することで、実現していかなければなりません。

このことについては、愛教研情報教育委員会でも継続している研究主題のもと、三つの研究のねらいを目指し、タブレット端末を用いた活用の研究を進めてきました。また、各支部での研修会や、今年度は南予で開催された実技研修会などでも、教師が活用するモデルから、タブレット端末の活用を中心に、一斉学習、個別学習及び協働学習を効果的に行うことを考え、児童生徒がグループで 1 台や個人で 1 台の授業形態における活用例を検証し、報告するなど、各支部を含めた研究の成果を報告させていただいていることで、課題となっている部分への対応の一助となっていると考えております。

今後も県下の教育現場において、ICT の特長を生かすことにより、これまで実現が難しかった学習場面が容易となり、一斉学習、個別学習及び協働学習を効果的に行うことができることで、児童生徒の情報活用能力が伸長することを願っております。

なお、本研究紀要が、児童生徒の日々の授業の中で、学力の向上や資質の伸長のために、少しでも生かしていただけるよう願っております。